ファンがつくる 金沢競馬をもっと楽しむ情報誌

遊駿 PLUS

協　　力：金沢ホースマンクラブ
協　　賛：金沢競馬振興協議会
発 行 者：遊駿プラス編集部

無料

ご自由にお持ちください

www.kanazawakeiba.com

十一月三日（祝）

JBC2026

おしえて！吉原先生
JBCの舞台の攻略法

出張ウマフリ
金沢を駆け抜けた芦毛の怪物たち

ウマフリ　緒方きしん

2026年11月
vol.61

※ご意見、ご感想をお寄せください
宛先 E-Mail：yushun.plus@gmail.com
http://sites.google.com/site/yushunplus/

Photo by haruka

KRC NEWS

ＪＢＣの前哨戦で一捲り
ホウオウルーレット、
白山大賞典制覇

ＪＢＣクラシックと同じ馬場、同じ距離で行われた今年の白山大賞典。ＪＢＣを見据えた実績馬や今後の飛翔を誓う上がり馬など中央地方の精鋭十二頭が集った。

一番人気は今年の帝王賞二着など悲願のＪｐｎＩを目指す重賞三勝馬アウトレンジ。二番人気はオープンで好走が続き初重賞を狙うクールミラボー。そして三番人気には前走の名古屋グランプリでアウトレンジに肉薄した園田のオディロンが続いた。

ゲートが開くとクールミラボーが好スタートから高知のユメノホノオと共に逃げてレースを引っ張る。前を追う先行勢は中央勢のシンビリーブ、アウトレンジに地元金沢のナミダノキス。中段にオディロンが控えて後方には中央のホウオウルーレットが続く。

一周目スタンド前から二周目向こう正面に向かう時にレースは一気に動く。後方に控えていたホウオウルーレットが一気にまくって前に進出。二周目の三コーナーで逃げるクールミラボーに並びかけて一気に先頭に躍り出る。

最後の直線に出るとクールミラボーを突き放していく。アウトレンジが中団から迫るが早めに抜け出したホウオウルーレットの先頭は変わらず、二番手クールミラボーに二馬身半差をつけて優勝。アウトレンジは三着まで。四着に地方勢最先着で白山大賞典トライアルのイヌワシ賞を制していた園田のダンテバローズが入線。オディロンは八着、地元金沢の最先着はナミダノキスの九着だった。



Photo by haruka
ホウオウルーレット

ホウオウルーレットは昨年の浦和記念以来の重賞三勝目。帰りの新幹線を気にしていた（本人談）鞍上の岩田康誠騎手は白山大賞典六勝目となった。

金沢の二一〇〇ｍを捲って勝って見せた岩田康誠騎手の手綱さばきは流石としか言いようがなく、ＪＢＣクラシックでもその動きは注目。三着だったアウトレンジも本番では斤量も減った上にコースを経験したアドバンテージもついて巻き返しは必至だ。

金沢一五〇〇ｍの牝馬は？
読売レディス杯、金沢クイーン賞

ＪＢＣレディスクラシックと同舞台の重賞は八月と十月に行われた。地方全国交流、読売レディス杯は八月に行われ、他場四頭、地元四頭の八頭で行われた。

レースは大外枠から逃げた二番人気の高知の七歳スカンジナビアがそのまま一度も先頭を譲らず、最後の直線で猛追してきた一番人気の川崎のホーリーグレイルを首差凌いで優勝。三着に船橋のプライドフレール、四着に大井のケテンドリームが入って遠征馬が上位を占めた。

スカンジナビアは初重賞、鞍上の井上瑛太騎手は読売レディス杯初勝利。


Photo by miwa
スカンジナビア

十月には地元勢による金沢クイーン賞（ハクサンアマゾネス記念）が行われた。レースは二番手追走の三歳馬スターキャンディが三コーナーで先頭に立つとピッタリマークしていた同じく三歳のグリーゼの追撃をクビ差振り切って優勝。重賞二勝目を決めた。


Photo by miwa
スターキャンディ

三着には直線入口最後方から上がり最速の脚で飛んできた三歳のパッションビートが入り三歳馬で独占した。

スカンジナビアはレディスクラシックへの参戦を予定している。前哨戦の大井でのレディスプレリュードからは距離が三〇〇ｍ短縮されるとあって、ここへどれだけの中央馬が姿を現すか。楽しみな一戦となりそうだ。

金沢一四〇〇ｍは
新王者とスペシャリスト

ＪＢＣスプリントと同舞台の重賞金沢鼓門賞が九月に行われた。一番人気は去年中央の京都金杯を制し、中央で重賞二勝を挙げたサクラトゥジュール。

レースは三番人気のハクサンパイオニアがすぐ後ろを追う展開。この二頭が差をつけて逃げる所、レースの中盤で後方に控えていた二番人気キュムロンニンバスが内をするすると伸びて迫る。

コーナーでサクラトゥジュールが脱落するとハクサンパイオニアとキュムロンニンバスとの一騎打ちになり、直線でキュムロンニンバスが前に出て二馬身離して優勝。三着に中団から差してきた四番人気トゥルーバローズ、サクラトゥルージュは四着だった。

キュムロンニンバスは一四〇〇ｍの重賞連勝で金沢の短距離王となりそう。鞍上は今年金沢で大活躍の名古屋の望月洵輝騎手でこのレース初勝利。

二着のハクサンパイオニアもだが一四〇〇ｍのスペシャリストが張る金沢短距離戦線。金沢のコースの中でも一癖ありそうなコースとも言える。

中央勢一択、と思い込んでしまうのは、少し危ないのかもしれない。

ミニデータルーム 金沢の有力馬達

金沢の名馬と言えば、平地重賞最多勝利の二十五勝を誇るハクサンアマゾネスだが、彼女は二〇二四年をもって引退。

金沢競馬と縁遠い競馬ファンにとっては「今、金沢の有力馬はどうなっているの？」とお思いになっていることだろう。

そこで、改めて今年金沢で勇躍している馬達を紹介したい。

▼ナミダノキス（牡五歳）

春の大一番「百万石賞」を昨年から連覇した石川優駿馬のナミダノキス。ホッコータルマエ産駒の彼は金沢の総大将。馬主は中央のファンにもお馴染み(有)ミルファーム。

中央では五戦未勝利だったが、移籍してからは三連勝で石川優駿を制して冬の大一番中日杯で三着に敗れるまで六連勝を記録。その後も重賞戦線では掲示板を外さない安定した成績を残している。

当初は中団より後ろから鋭い差し脚で差す競馬を見せていたが、今年の百万石賞では三番手からの早め先頭で大差圧勝と新味を見せた。前走は地元とは言え初めての交流戦、しかもダートグレードの白山大賞典（二一〇〇ｍ）とあって結果は九着と結果を残す事はできなかった。

ただ、同距離の二一〇〇ｍで今年の白山大賞典四着相当のタイムで走破した事もあるので、もしＪＢＣクラシックに登場したならば掲示板、あわよくば馬券圏内と淡い期待を抱いてしまう。

二一〇〇ｍ戦での活躍をもう一度、である。



ナミダノキス

▼キュムロンニンバス（牡八歳）

こちらも(有)ミルファームが所有をする、プリサイスエンド産駒の馬。ナミダノキスとは違って中央で三勝クラスまで出世し、今年金沢に移籍。三勝クラスの実力をそのままに日本海スプリント、金沢鼓門賞の一四〇〇ｍ戦重賞を連勝し、金沢の短距離界のトップと言える一頭。

移籍当初はスピードを生かして逃げて勝ってきたが、重賞戦線に参戦すると先行や差しで勝利を収めて自在な脚を見せている。

中央や他所所属の馬との交流競走に出ていない点や前回のＪＢＣスプリントから見て必要な一四〇〇ｍ一分三十秒を切る走破タイムがまだない点など強力な相手に対してまだまだ未知な部分や不安な部分もあるように見える。

それでも三勝クラスでくすぶっていた彼が大舞台でアッと言わせるような走りを見せてくれる事を祈る。



▼ハクサンパイオニア（牡六歳）

金沢での十二勝の内十一勝が一四〇〇ｍ戦とまさに一四〇〇のスペシャリスト。

ドレフォン産駒の彼は四歳時に二勝クラスから金沢に移籍するとその逃げ脚で安定した成績を残して五歳で重賞を初制覇。今年までに重賞三勝とキュムロンニンバスと肩を並べる短距離の王者。

こちらは一四〇〇ｍ一分三十秒の壁はクリアし、他場だが交流戦でも好成績を収めている。一四〇〇のスプリントに登場となれば好走を期待したいところ。

ちなみに、彼は重馬場と不良馬場では二〇戦で八勝着外二回だけという荒馬場の鬼でもある。彼の走る日のお天気も要チェックだ。

▼グリーゼ（牝三歳）

今年の北日本新聞杯、石川優駿の三歳重賞を制したマテラスカイ産駒の牝馬。

二歳時に門別から移籍した当初は重賞であと一歩と言う成績が続いたが、三歳になって一気に才能開花。北日本新聞杯では逃げて六馬身差、石川優駿では先行から八馬身差と圧倒的な強さを見せた。

秋は馬体故障の取消明けの重賞サラブレッド大賞典で五着だったが次走の重賞金沢クイーン賞でクビ差二着と復活の兆しを見せた。

▼スターキャンディ（牝三歳）

下半期にグリーゼに立ちはだかったが(有)ミルファーム所有のシュヴァルグラン産駒のスターキャンディ。

中央未勝利から五月に金沢に移籍すると三連勝果たし、重賞を二戦連続で好走すると九月にグリーゼ等を下してサラブレッド大賞典で重賞初制覇。続く金沢クイーン賞でもグリーゼをクビ差制して重賞連勝を果たした。

金沢では馬券圏内を外した事のない安定した走りを見せる彼女。復調したグリーゼとの二強時代に突入するか。



金沢競馬は移籍などで上半期と下半期でガラッと有力馬の面々が変わる事も多い。

金沢移籍で一気に才能を開花させる事が毎年のようにあり、そうかと言って移籍馬みんなが活躍するかと言えばそうでもなく。その辺りの見極めや才能開花劇を見るのが金沢を楽しむ要素の一つと言えそう。

中央とはまた違った楽しみを、有力馬達を見ながら味わってほしい。

おしえて！吉原先生



金沢を知り尽くした吉原寛人が教える ＪＢＣの舞台の攻略法

ＪＢＣの三競走はクラシックが二一〇〇ｍ、スプリントが一四〇〇ｍ、レディスクラシックが一五〇〇ｍで行われる。

金沢、地方競馬に慣れていない人にとってこの三つの距離の特徴や傾向を知る事が馬券を取る上で重要な情報となるだろう。

そこで金沢競馬場の馬場を知り尽くした吉原寛人騎手にそれぞれの馬場の特徴を聞いてみた。



砂が変わったら競馬が変わった？

距離の前に今シーズン、大きく変わった馬場について触れたい。

馬場の砂が白砂に変わり、深さも十四センチと深くなった。この変化により開幕直後の四月にはインタビューで松戸政也騎手が「急に変わったので馬も騎手も戸惑っている」と述べる程に傾向が変わった。

では、半年経った今、吉原騎手にも砂について尋ねると、

「前回（のＪＢＣ）はもうちょっと軽い馬場で、ちょっとタフな馬場にはなった」

とのこと。金沢と言えば前有利、行った者勝ちと言うイメージが強いが、それはもう過去の話なのかも。

「差し、追い込みも結構決まりやすくはなっているので前残りだけの競馬だけではないね」

これまでなら四コーナー先頭ならこのまま押し切れると思われた展開でも、最後に差し切られると言う場面が今年は多く見られる。競馬の面白さや予想のやりがいのある馬場になっていると言えそうだ。

力の出しやすい二一〇〇ｍ

クラシックの二一〇〇ｍは向こう正面入口のポケットからスタートしてコーナーを六回回ってコースを一周半走る。

いかにも紛れが起きたり、有利不利が起きたりしそうな感じがするが、吉原騎手はそうは思わない。

「他の地方競馬場に比べて有利不利が少ない」

六回回るコーナーでペースが落ちたりするかと思いそうだがそれも、

「コーナーはコーナーでペース落ちない、緩いから」

なので、二一〇〇ｍの長丁場だと、

「淡々と流れるのでペースが落ち着くところが余りない。流れに乗せたほうがいい結果残るかな」

逃げなくてもペースを握る馬が他の距離に比べて断然有利となる。

それが見事にハマったのが金沢での前回のクラシック。

ミューチャリーの騎乗ではスタートから前目のポジションを取り、二周目四コーナーで出し抜くまで流れに乗せてペースを握り続けて快勝につなげた。



ミューチャリー

逆に後ろからまくる作戦は流れやすいコースな上に直線も短いので決まりにくいと思われるが、今年の白山大賞典で岩田康誠騎手がホウオウルーレットで向こう正面からのまくりを決めて快勝。そうなるとまくりも考慮しておいた方がいいのかもしれない。

スプリンターには厳しい？一五〇〇ｍ

レディスクラシックの一五〇〇ｍは正面スタンド前のポケットから、スプリントの一四〇〇ｍはポケット入口からそれぞれスタートしてコーナーを四回周るコース。

どちらもマイラーでもスプリンターでもこなせそうな距離だが、

「マイルの馬の方が乗りやすいかな。スピード任せだとちょっと止まる」

とのこと。実際、中央や大井の一〇〇〇ｍや一二〇〇ｍで成績を残した馬がこの距離で成績を残せない事はよく見られる。その理由で考えられるのが四回回るコーナーだ。

「バリバリの一〇〇〇ｍ～一二〇〇ｍを使っている馬だと三コーナーで気持ち切れちゃう馬が多い」

中央や大井のように広く、ワンターンの競馬場で結果を残した馬にはタフなメンタルが必要となる。

「一二〇〇（が主戦場）の馬は難しい。気持ちが持つタイプならいいけど。ワンターンでさっと流れるレースに慣れている馬の気持ちを持たせるには難しいコースかな」

スプリント、と言う名前に引っ張られて短距離馬を狙うよりもマイラーや一八〇〇ｍまで守備範囲の馬を狙った方がいいのかもしれない。

名手でも難しい　一四〇〇ｍ

金沢の平場で多く行われる一四〇〇ｍ戦だが、吉原騎手の口から何度も「難しい」の言葉が出た。

「オープンの一四〇〇ｍは乗りづらい。これだけメンバー揃うので展開が激しくなっちゃう。そういう部分で難しい」

金沢のオープン戦でも乗りづらい、ましてＪＢＣでは、である。

「先行争いが激しくなっちゃうので、位置取りも取れないままコーナー外回ってしまう」

そんな全体が外に回る中で内を突いて好走したのが前回のスプリントで二着に入ったサンライズノヴァだ。



サンライズノヴァ

「みんな外を回っていたので、二コーナー立ち上がりから内を狙って突いて二着に来た」

スタートから外へ行く馬が多く、内が空きやすく、そこを狙っていく。コースを熟知した吉原騎手の作戦勝ちだった。

ちなみに内を突いた、同じようなコース取りをしたのが川田将雅騎手騎乗の勝ち馬ルゼル。金沢一四〇〇ｍはまさに名手の腕の見せ所だ。

砂の入れ替わり、多彩な距離と競馬の面白みが前回の金沢よりも増えた今年のＪＢＣ金沢。

「乗っていて競馬が面白くなった。前は行きっぱなしの競馬でちょっと駆け引きがなかった。今は何も考えずに行くと止まっちゃうので。そういう意味では面白みは増えた。その辺見てもらえれば」



乗る方も見る方も面白く白熱したレースが繰り広げられる。

また、今年のＪＢＣ金沢は二年前の能登半島地震の復興の願いも込められている。

「能登に元気をと言う気持ちで乗りたいと思うし、ちょっとでも復興の足しになれば」

当日は能登で被災された方々の招待もある。そんな人達のまなざしを受けて吉原騎手は勇躍する。

「（全国の競馬ファンには）ぜひとも金沢競馬に来てもらって、来られない人は動画で見て、一緒に盛り上がりたいなって気持ちですね」

全国の地方競馬場の表彰台で見せるあの笑顔でそう言った。

今回も表彰台でその笑顔を見せてくれる事を期待したい。

金沢を駆け抜けた芦毛の怪物たち

ウマフリ　緒方きしん

先日、ウマフリ監修で『名馬コレクション 芦毛の怪物たち』という書籍を出版した。その名の通り芦毛に着目した一冊で、紙面ではオグリキャップやゴールドシップ、メジロマックイーンやクロフネなど、多くの芦毛の名馬を取り上げた。

金沢の芦毛の名馬で思いつくのは、ナムラグローリーだろうか。オータムスプリントカップ連覇など活躍し、二〇〇九年度における金沢競馬の年度代表馬にも選出された活躍馬である。

そもそも芦毛という毛色は両親のいずれかが芦毛でないと発生しない。ナムラグローリーの血統はどうだったか、と思って調べてみた。すると父はスターオブコジーン、母父はダイナコスモスで二〇一〇年代でも現役バリバリだったことを思うと古風な血統だなと思うと同時に、芦毛の種牡馬たちではないことに気が付く。

ナムラグローリーは母の母の母の母の父であるラッシーから牝系で継承し続けてきた珍しい芦毛だったのである。芦毛の名馬の本を作ってわかったが、牝系で芦毛を受け継ぎ続けるケースは意外と稀である。メジロマックイーンは父親が芦毛だし、オグリキャップは両親と祖父がすべて芦毛であるように、大体は父か母父から芦毛を受け継いでいる。

そんな特異的な存在のナムラグローリーだが、八頭の兄弟のうち六頭が芦毛。なかなか珍しいほどの遺伝力を感じる。

さて、長い歴史を誇るＪＢＣスプリント・ＪＢＣクラシックだが、芦毛の勝ち馬はどれほどいるのだろう。実はそれぞれ、一頭ずつしかいない。ＪＢＣスプリントは地方馬として初めてＪＢＣを制したフジノウェーブ。そしてＪＢＣクラシックは地方馬として初めてＪＢＣクラシックを制したミューチャリーである。中央の芦毛馬たちは、まだＪＢＣスプリント・ＪＢＣクラシックを制していないということになる。


ミューチャリー

この二頭の勝利したレースはあまりにも感動的。しかしここで語りたいのは、やはり金沢開催のＪＢＣクラシックを制したミューチャリーだ。ミューチャリーと金沢の名手・吉原寛人騎手がコンビを組んだのはＪＢＣクラシックの前哨戦・白山大賞典から。そこでは中央のメイショウカズサが逃げ切り、三馬身差の二着となった。道中六番手から徐々にポジションを上げる競馬だったが、本番のＪＢＣクラシックでは道中三番手からの競馬に切り替える。

そして早めに先頭に立つと、そのままオメガパフュームの追撃を振り切って半馬身差をつける完勝。まさに金沢を全て知り尽くした名手による天才的な騎乗であった。二着がオメガパフュームだったことを考えると、そういえば『芦毛のワンツー』だったのだ、と今になったら思うが、当時は吉原騎手の地元での勝利に感動してそれどころではなかった。

先ほど「芦毛というのは大体が父か母父から受け継いでいる」と記述したが、ミューチャリーの芦毛はどうだろうか。

実は、ナムラグローリーよりもさらに古くから、牝系で脈々と受け継いできた芦毛なのである。その由来は、なんと母の母の母の母の母の父である Native Dancer。そういった観点からも、やはり異質な馬だったのだなと改めて感じさせられる。

こちらも兄弟に芦毛が多く、半姉のグランシュクレはこれまで産んだ六頭のうち五頭が芦毛。芦毛帝国が築けそうな勢いだ。

今年の金沢ＪＢＣでは芦毛の馬はどのような活躍をしてくれるのか。地方対中央などで語られることの多いＪＢＣだが、あえて毛色で切り分けて応援してみるのも、面白いかもしれない。

名馬コレクション「芦毛の怪物たち」

強くて愛らしい、芦毛のアイドルホースが勢揃い！

オグリキャップからガイアフォースまで…ファンの心を掴んで離さない芦毛の名馬たちを一冊に。放牧中のオグリやメジロマックイーンなど、九〇年代の貴重な写真から安藤勝己氏など関係者へのインタビューまで…。この本でしか見られない、読めない貴重な記事が満載！

ガイドワークスより全国の書店、インターネット書店で発売中。

二九八〇円（税込）



金沢競馬場 ミニミニガイド



金沢競馬場はどこにあってどんな場所なのか。金沢競馬場の観戦を現地で、と思う県外の競馬ファンの方へ、その行き方や場内がどんな場所なのかを紹介していきたい。



◆◆◆ アクセス ◆◆◆

マイカーでの来場

ＪＢＣ当日、競馬場の駐車場は事前抽選で当選した当選者のみ使用可能で一般の方は利用できない。そこで、マイカーを利用する方は金沢市内に点在する臨時駐車場に止め、そこから発着するシャトルバスでの来場となる。

臨時駐車場は午前八時に開場し、シャトルバスは午前八時三十分に始発が発車する。帰りの最終バスは午後七時なので、乗り遅れにはご注意いただきたい。

臨時駐車場、シャトルバスのバス停の場所は左のマップ、または公式サイトでご確認を。

マイカー以外での来場

金沢駅西口（金沢港口）から無料のシャトルバスが競馬場まで出ているので、これを利用するのがお勧め。始発は午前八時で随時発車。帰りの最終バスは午後七時三十分となっている。

なお、帰りの最終バスに乗り遅れた場合は、タクシーで金沢駅まで向かうか、最寄駅「ＩＲいしかわ鉄道」森本駅まで徒歩（約四キロ）での移動となる。

◆◆◆ 特別観覧席 ◆◆◆

今までも利用料千円の特別観覧席があったが、今年から利用料四千円のボックス席が誕生。ご家族、友人などの集まりでの観戦にお勧めしたい。

◆◆◆ 予想紙 ◆◆◆



現在金沢競馬場では予想紙が「競馬カナザワ」「競駿ホープ」「キンキ」の三紙発行されている。

三紙全てがブック型で馬柱は横型となっているが、縦型の馬柱を出す予想紙もある。

入場門から入ってすぐ左手に新聞の販売所が各紙ごとに並んでいて、売店のお兄さんお姉さんとその日の傾向や競馬の事を話しながら購入するのも楽しみとなっている。

また、コンビニでのネットプリントもあるので当日の混雑を回避したい時はこちらの利用もどうぞ。

◆◆◆ 場内グルメ ◆◆◆

金沢競馬場にはメインスタンド三階の「大食堂」、パドック横の「軽食堂街」のほか、全国的にも有名な寿司屋「金澤玉寿司」がある。

提供される料理もお好み焼き、麺類、揚げ物、アジア料理と、バラエティに富んでおり、特に「たこ勝」の『ペア』は金沢競馬場グルメ最強のコスパと人気を集めている。

さらにカフェや大判焼の甘味、イベントによってはキッチンカーも出て目移りしそうう。

混雑を回避のために外で飲食物を買って来場するかもしれないが、行列覚悟でも場内での飲食店での競馬場グルメを楽しんでほしい。



うちの仔カフェ

◆◆◆ 写真コンテスト開催 ◆◆◆

金沢競馬場内のカフェ「うちの仔カフェ」が主催する写真コンテストが作品を募集している。

テーマは「金沢競馬の魅力を伝える写真」。令和八年中に金沢競馬場で撮影された写真が対象となり、一人一点限りの応募となる。

グランプリ作品には賞金一万円が贈呈され、他にも受賞者には石川県の伝統工芸品やクオカードにお食事券、石川県産こしひかり等の豪華賞品が贈呈される。また、入賞作品は石川県庁十九階展望ロビーで開催される入賞作品展で展示される（令和九年二月十五日から二三日まで）。

応募締切は十二月二十七日。

ＪＢＣで、あるいはＪＢＣの後で撮った金沢競馬での一枚を応募してみてはどうだろうか。

応募先、応募方法等詳細は金沢競馬場内うちの仔カフェにあるフライヤー、うちの仔カフェのX、インスタグラムの各公式アカウントで。